

各 位

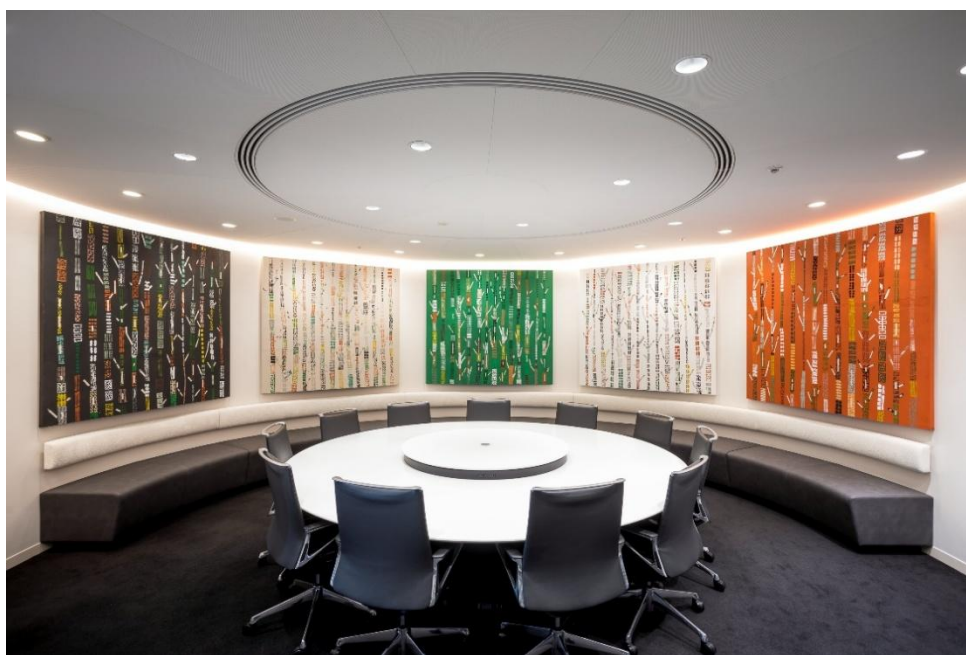
マネックスグループ株式会社
代表執行役社長 CEO 清明 祐子
(コード番号 8698 東証プライム)

第 19 回「ART IN THE OFFICE 2026」選出作品完成のお知らせ

マネックスグループ株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長 清明祐子）は、「ART IN THE OFFICE」の 2026 年度受賞作品、藤本楓氏による「無駄話をしよう（会話の木）」が完成したことをお知らせします。「ART IN THE OFFICE」は、当社が社会貢献活動並びに社員啓発活動の一環として実施しているプログラムで、2026 年は、国内外から寄せられた 121 点の応募作品の中から、藤本氏の作品が選出されました。

藤本氏は、「無駄話」の持つ価値に着目し、会話の中で話題が本題から派生していく様子を木の枝分かれになぞらえ、対話から生まれる広がりや会話の軌跡を可視化する作品を提案しました。審査においては、会議室という空間の特性を生かし、社員との対話を創作の核に据えている点に加え、普段は見過ごされたり忘れられたりしがちなやり取りに光を当てる視点が高く評価されました。また、AI 技術の急速な進化・浸透によって効率化が進む現代において、あえて「無駄」なものと捉えられやすい対話の価値を見つめ直し、人と人との関わりの豊かさを再認識させる発想も選定を後押ししました。

5 日間の滞在制作を経て完成した作品は 5 つの画面で構成され、左から順に滞在制作 1 日目から 5 日目までの記録が表されています。社員との日々の会話が枝分かれしていく過程が可視化され、滞在制作中に交わされた「無駄話」の痕跡が作品全体に刻まれています。



(写真) マネックスグループ株式会社 プレスルーム (GALAXY)
「ART IN THE OFFICE 2026」作品／藤本楓／「無駄話をしよう（会話の木）」／2026／
木、寒冷紗、ガーゼ、紙、アクリル、インク／w10000× h1550 (mm) (サイズ可変)

「ART IN THE OFFICE」は、現代アートが未開拓の表現を追求し、社会の様々な問題を提起する姿勢に共感し、当社を通じて現代アートの新進アーティストを支援する場づくりをしたいとの思いから、NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]の運営協力を得て、2008 年に生まれたプログラムです。受賞アーティストの更なる活躍を期待すると共に、社員にとっても様々な価値観や考え方を認め合うことを大切にし、アーティストとの交流によって生まれる刺激から新しい着眼点を見出すことを促す狙いもあります。2025 年には、現代アート振興への貢献が評価され、「令和 7 年度文化庁長官表彰」を受けました。

今後も、企業理念に謳っている「MONEX とは MONEY の Y を一歩進め、一足先の未来における人の活動を表わす」ことを模索してまいります。

◆作品および受賞アーティスト紹介

作品タイトル：「無駄話をしよう（会話の木）」

受賞アーティスト 藤本楓（ふじもと かえで）氏 プロフィール：



2000 年生まれ。2026 年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。現在、同大学修士課程在籍。曖昧なもの、くだらないこと、無駄で余分なものがもたらす豊かさを感じながら、現代で淘汰され始めたそれらの「あってもなくてもいいもの」を日常の観察から見つけ出し、その中に潜む些細で見落としがちな魅力を作品にできないか模索している。主な展覧会に、「小さな島の停泊所」(haco-art brewing gallery、2024 年)「あおちゃんとかえちゃん 青と緑の上」(ART・IN・GALLERY、2024 年)「生命あるもの-プリントによる新たな可能性」(BAG-Brillia Art Gallery、2025 年)がある。またメディア掲載歴に、集英社読書情報広報誌『青春と読書』表紙絵掲載（2024 年）、Web メディア『24M』12 号、13 号 サイト内グラフィック（2025 年）など。敵でも味方でもない、冷たくも温かくもないけどどこか心地いい、台風の前に強く吹く生ぬるい風のようなものを作ることを理想とし、表現媒体を固定せず制作を行っている。

藤本氏コメント：

日々の会話では、話しているうちに話題が本題から少しずつ逸れていくことがあります。無駄話は余分なものとして捉えられがちですが、その寄り道の中で見えてくる、新たな発見や思いがけないつながりを大事にしたいと考えています。本作では、そのような会話の広がりをも木の枝分かれになぞらえ、耳にとまった話題が別の方向へ展開していく瞬間や会話を、自分自身の手で書き留め、そこから生まれる関係性を可視化しようと試みました。

滞在制作中に無駄話をしに来てくださった方々が、すでに制作されたキャンバス上に描かれている他の人との無駄話の破片を見て、「何の話をしていたんだろう」と想像を膨らませていたのが印象的でした。中には「これは〇〇さんが言った言葉でしょ」「確かに言いそう、でも私じゃないよ」などと誰かの会話の断片をもとに新たな会話が生まれる瞬間に立ち会うこともありました。この作品自体が無駄話を生む一端を担えたことを実感し、嬉しく思いました。

無駄話の始まりは常に突発的で、公式に内容が共有されたり記録されたりすることはほとんどありません。その場に居合わせた者だけがその流れを味わえるもののように思います。それを本作のように目に見える形で固定することで、全く関係のない人が他人の無駄話の断片や流れに触れ、その経緯を想像するという体験が生まれました。誰かの無駄話が、想像もしなかったところで新たな無駄話を生んでいく。まさに望んでいた会話の飛躍を垣間見ることができました。

人の会話の経緯を想像するというのは面白い行為だなと思います。もしこのプレスルームに寄ることがあれば、ふと立ち止まって、近づいて文字を読んで、どんな経緯でこのワードが出たのか、他の人の無駄話に思いを馳せてみてください。

◆受賞者の選考について

「ART IN THE OFFICE」サポート内容：

公募による応募作品の中から選出された 1 名（1 組）のアーティストに対し、社内のプレスルームを応募作品の発表の場として約一年間提供します。選出されたアーティストには 50 万円の賞金および 50 万円の制作費が支払われる他、マネックスグループの統合報告書などへの本作品画像の掲載や、オリジナルノベルティのデザインに利用される予定です。本プログラムは、2019 年に公益社団法人企業メセナ協議会の認定制度「This is MECENAT 2019」に選定され、2012 年には公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）が主催する「2012 年度グッドデザイン賞」（G マーク）を受賞している取組みです。

選考条件：

- ・ 現代アートの分野で活動するアーティスト（学生可）
- ・ 企業のプレスルームという空間の特徴を踏まえ、独自性・先駆性があること
- ・ 「一足先の未来における人の活動」というマネックスグループの企業理念を考慮したもの

2026 年度審査員（敬称略、五十音順）：

蔵屋 美香 横浜美術館館長
小堀 宗以 遠州茶道宗家 若宗匠
塩見 有子 NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]理事長
額賀 古太郎 KOTARO NUKAGA 代表
松本 大 マネックスグループ株式会社 会長兼取締役会議長

マネックスグループ ART IN THE OFFICE website：

https://www.monexgroup.jp/jp/sustainability/art_in_the_office.html

（報道関係者様のお問い合わせ先）

マネックスグループ株式会社 コーポレートコミュニケーション室 渡辺、加藤、石井 電話 03-4323-3983

（株主・投資家様のお問い合わせ先）

マネックスグループ株式会社 経営管理部 IR グループ 稲田、小森、松浦 電話 03-4323-8698